

科目名	生徒指導		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

生徒指導については、高校時代まで指導を受けるという経験を通じて、ある程度は知っているであろう。しかし、それは必ずしも当を得た理解とは限らない。そこで、生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法等について、きちんと理解を図ることを目的とする。合わせて、進路指導についても同様に理解を深めることをねらう。

この授業を通じて、教師として行うべき生徒指導について、その意味、意義・重要性、指導内容、教育課程との関連性、指導の組織と計画、生徒理解の方法、指導方法、進路指導等について、きちんと理解してほしい。

内容

1. 生徒指導の意義と目的
2. 生徒指導の領域・内容と課題
3. 生徒指導と教育課程との関連
4. 生徒指導の組織と計画
5. 児童・生徒理解の意義と重要性
6. 児童・生徒理解の内容
7. 児童・生徒理解の方法〔その1～観察法・面接法（その1）〕
8. 児童・生徒理解の方法〔その2～面接法（その2）・検査法・その他の方法〕
9. 生徒指導の方法原則
10. 生徒指導における集団活動の意義と重要性
11. 生徒指導における集団指導の方法
12. 進路指導の目的と内容（その1）
13. 進路指導の内容（その2）
14. 進路指導の方法
15. まとめ

授業は教科書を使って行うが、必要に応じて別途プリントや資料を配布し、講義形式で行う。そして、授業中に質問を発生して、挙手の形で答えるという質問応答の方法を取り入れていく。

また、毎回の授業で、その時間に学ぶべき事項の理解を深めるべく、かつ復習を兼ねて質問を発生し、配布された用紙に解答して提出してもらおう。なお、これが平常点と出欠チェック の資料となる。

評価

平常点（15点） レポート（15点） 筆記試験（70点） 60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】江川？成編著 『生徒指導の理論と方法（三訂版）』 学芸図書

【参考図書】江川？成編集 『校長・教頭のための児童・生徒問題対応百科』 教育開発研究所

上寺久雄編 『生徒指導』 有信堂

推薦書・参考図書については、これ以外にも授業で提示する。

科目名	教育相談		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」に対応するものである。

中学校・高等学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

学校教育において個に応じたきめ細かな指導を進めるために、児童生徒理解を欠かすことは出来ない。指導にあたる教師が児童生徒のありのままを受け止め、教育相談的にかかわることができるようにするため、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生相互の意見交換を大切に、主体的に人とかかわる体験を通して教師を目指して自ら向上しようとする態度を身につける。

学修目標

- ・学校教育相談とは何か、教育相談やカウンセリングの歴史及び基本的な理論について理解し、その意義や課題について考察する。
- ・学校における生徒指導の中核をなす教育相談の果たす役割について理解し、カウンセリングマインドによる具体的な指導のあり方について考察する。
- ・学校教育相談の進め方について理解し、カウンセリングの模擬体験をする。

内容

1	(1) 生徒指導における教育相談の位置づけ
2	(2) 生徒指導の内容と教育相談
3	(3) 生徒理解と生徒指導の方法
4	(4) 問題行動の意味と枠組み
5	(5) 学校における教育相談の意義と特色
6	(6) 学校教育相談の担当者
7	(7) 学校教育相談の基本的考え方
8	(8) 教育相談・カウンセリングの理論
9	(9) 教育相談・カウンセリングの進め方
10	(10) カウンセリングの基本技法
11	(11) カウンセリングの模擬体験(1)事例に基づく体験
12	(12) カウンセリングの模擬体験(2)相談事例の検討
13	(13) 学校教育相談におけるさまざまな手法の活用
14	(14) カウンセリング実習(1)家族や将来の問題
15	(15) カウンセリング実習(2)・評価とまとめ

評価

試験60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】長谷川栄、杉原一昭編 『生徒指導と教育相談』教職教育講座第5巻 協同出版

【推薦書】渡辺弥生 『学校だからできる生徒指導・教育相談』 北樹出版 375.2/G

中野武春 『学校教育相談がわかる本』 ぎょうせい 375.2/N

北島貞一 『学級で活かす教育相談』 ぎょうせい 375.2/G

科目名	教育実習		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教科教育法や教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。この指導により参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

評価

授業への出席、教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。評価は、模擬授業40点、教材研究20点、レポート20点、実習20点により行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の際に指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	島村 豊博、向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 教科関連科目・教科教育法、教育実習 で修得してきたことをふまえて、教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。
2. 学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。 なお、本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「英語科」の前期実習(必修)、高等学校一種「英語科」(3週間以上の実習期間の者を対象とする)前期実習(選択)である。

内容

協力校における3週間以上の参観実習および教壇実習からなる授業担当による教育実習を行い、専門教科の教授法だけでなく、ホームルーム等を通じてクラス管理のノウハウも学ぶ。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、必要な場合はプリントを配布する。推薦書は適宜授業中に紹介する。

科目名	教育実習		
担当教員名	島村 豊博、向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

- 1．教科関連科目・教科教育法、教育実習 で修得してきたことをふまえて、教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに修得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。
- 2．学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

内容

協力校における2週間の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストは使用せず、必要な場合はプリントを配布する。推薦書は適宜授業中に紹介する。

科目名	教育実践論		
担当教員名	向後 朋美、安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は中学校教諭一種免許状（英語）取得のための必修科目です。教科または教職に関する科目の1つで、「介護等体験」実習とその事前事後指導を含みます。

「介護等体験」の対象となる社会福祉サービスを利用している方々や社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を得ます。

- 。（i）介護等体験の事前指導をとおして、社会福祉教育の概要をまなび、そこで必要とされる基本的な技術を体得します
- 。（ii）配属先の実習施設での実習をとおして、社会福祉従事者の基本姿勢を学びます。（iii）事後指導をとおして、体験した内容の振り返りを行い、基本的な認識を醸成します。

内容

1. 事前指導

- （1）社会福祉教育について
- （2）対人援助について
- （3）介護等体験の目的について
- （4）介護等体験における心構え
- （5）自己目標をたてる
- （6）社会福祉施設と福祉サービスについて
- （7）特殊教育と障害児者について
- （8）配属先施設についての自己学習
- （9）社会福祉施設の専門職について
- （10）社会福祉従事者の基本姿勢
- （11）コミュニケーション理解
- （12）車椅子、食事介助、移乗等体験

2. 介護等体験

3. 事後指導

- （1）介護等体験における個別振り返り
- （2）介護等体験におけるグループによる振り返り

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とする。

- （1）授業への参加度 50%
- （3）介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価： 50%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で介護等体験の手引きを配布します。

科目名	社会教科教育法（公民科教育序論）		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1 科目の性格科目

本科目は、教員免許法に定める「各教科の指導法」（中学8単位中の2単位・高校4単位中の2単位）に対応する。

2 科目の概要

本科目では、我が国の初等中等教育における、社会科教育全体の教育課程の構成を特に中学校に焦点を当てて学ぶとともに、中学校社会科の授業展開に必要な基本的技能を学ぶことを目的とする。

3 学修目標

本科目の学修目標は以下の3点である。 初等中等教育における社会科の目標について理解する。 中学校社会科の学習内容とその意義について理解を深める。 中学校社会科の授業展開に必要な基本的技能を身につける。

内容

- 1 戦後の教育改革と社会科の設置
- 2 社会科教育課程の変遷
- 3 高等学校教育課程の改編と公民科の設置
- 4 「公民的資質」の概念
- 5 地理・歴史教育と公民教育の関連
- 6 道徳教育との関連
- 7 教科外教育活動との関連
- 8 様々な授業の形態
- 9 資料活用の方法
- 10 評価法の基本
- 11 優れた実践事例の研究
- 12 指導案の作成
- 13 模擬授業
- 14 授業分析の技術と方法
- 15 まとめ

評価

レポート・指導案の作成課題・筆記試験により判定する。その比率は30点：30点：40点とする。合計60点以上を合格とし、合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】 文部科学省『高等学校学習指導要領』および『公民科解説書』をテキストとして使用する。検定済み教科用図書については、学校所蔵のものを使用する。

【参考図書】 参考図書については、授業中に適宜指示する。

科目名	教職演習		
担当教員名	天井 勝海		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教職に求められる実践的な資質や能力等を育成する。特に教職演習 との関連性があり、教職演習 の学修内容を発展させた内容を取り扱う。

我が国の学校教育においては、国際化・情報化・高齢化・少子化などの著しい進展に伴い、児童生徒を取り巻く環境が急変する中で、教育上の様々な課題が生じている。このことを踏まえ、具体的な課題を取り上げ、課題解決に向けた実践的な指導力やそのために必要な資質や能力を育てる。

教職に求められる実践的な指導能力を高めることを重視するので、単なる知識理解にとどまることなく、常に生徒や保護者あるいは地域の方々とのかかわりを意識して学修を進めることが重要です。

内容

- 1 学校教育の現状と課題
- 2 学校改革の推進と特色ある教育課程の編成実施
- 3 個に応じた授業の推進と授業力
- 4 授業の改善と授業評価
- 5 生徒の問題行動と生徒指導の在り方
- 6 いじめ問題への対応
- 7 いじめ問題が生まれない学級づくり・学校づくり
- 8 不登校問題への対応
- 9 不登校問題が生まれない学級づくり・学校づくり
- 10 キャリア教育と進路指導
- 11 体験学習の推進と心の教育
- 12 地域に開かれた学校教育
- 13 人権教育の推進
- 14 これからの学校経営の在り方
- 15 教育公務員としての自覚と責任

評価

・テスト60点・発表20点・課題提出20点として総合評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 現代実践教職入門(学事出版)・毎時間配布される資料

推薦書 授業の際に内容に応じて紹介します。

科目名	社会・公民教科教育法		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1 科目の性格

本科目は、教員免許法に定める「各教科の指導法」（中学8単位中の2単位・高校4単位中の2単位）に対応する。

2 科目の概要

本科目では、高等学校公民科の教育課程について理解するとともに、高等学校公民科の授業展開に必要な基本的知識・技能を身につけることを目的とする。

3 学修目標

本科目の学修目標は以下の3点である。 高等学校公民科の教育課程構成について理解する。 公民科を構成する3科目についての基本的知識を修得する。 公民科の指導案を作成し授業を実施する能力を身につける。

内容

- 1 公民科の教科構造
- 2 公民科の教育目標
- 3 「現代社会」 - 科目の性格と目標
- 4 「現代社会」 - 内容構成
- 5 「倫理」 - 科目の性格と目標
- 6 「倫理」 - 内容構成
- 7 「政治・経済」 - 科目の性格と目標
- 8 「政治・経済」 - 内容構成
- 9 指導案作成の基本
- 10 指導案作成の演習
- 11 模擬授業の実施
- 12 指導案の再構成
- 13 模擬授業の再実施
- 14 授業分析
- 15 まとめ

評価

レポート・指導案作成課題・筆記試験により判定する。その比率は30点：30点：40点とする。合計60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】 文部科学省『高等学校学習指導要領』および『公民科解説書』をテキストとして使用する。検定済み教科用図書については、学校所蔵のものを使用する。

【参考図書】 参考図書については、本学所蔵のものを授業中に適宜紹介する。

科目名	英語教科教育法		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1) 「英語教科教育法」(2年前期)で習得した点をふまえて、英語科教育の理論と方法について理解を深め、発展的な事項を学ぶ。さらに、授業の具体的な技術・方法を模擬授業をとおして体験的に学び、4年次の教育実習への橋渡しとする。

内容

次のような授業計画で進めていく。

- (1) 公開研究授業のビデオの視聴
- (2) 授業の構成(年間の授業計画の中での位置付けと1時間ごとの授業設計)
- (3) Listening、Speaking、Reading、Writing の4技能の実際的指導
- (4) 文法・語彙の指導
- (5) 教材研究(中学校英語教科書と副教材の分析)
- (6) 学習指導案の作成
- (7) 模擬授業(学生同士の授業分析と評価)

上記と並行して、英語力アップのための小テストを毎回行うとともに、動詞、準動詞を中心に英文法の総整理をおこなう。

評価

授業への参加状況20%、小テスト40%、レポート、または期末テスト40%の割合で評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『英語教育 実践から理論へ』 米山朝二著、松柏社

必要に応じてプリントを配布する。

推薦書については授業の際に指示する。

科目名	英語教科教育法		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「英語教科教育法 」（2年前期・後期）および「英語教科教育法 」（3年前期）で習得した英語教育の理論と方法についての知識を、実際に授業を行うための具体的な技術・方法に直接結び付け、自分なりの教授法が確立できるようにする。

内容

- (1) 実習校での使用予定の教材研究を行った上で、教案を作成し、それに基づいて50分の模擬授業を行う。教師役の学生と生徒役の学生がそれぞれ模擬授業の後で、批評をし合う。
- (2) 前期に引き続き、教える立場に立った英文法について総点検を行う。
- (3) 教科書に使用されている世界の文化的背景についての知識も深める。

評価

授業への参加状況20%、小テスト40%、レポート、または期末テスト40%の割合で評価を行い、60点以上で合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『英語教育 実践から理論へ』 米山朝二著、松柏社

必要に応じてプリントを配布する。

推薦書については授業の際に指示する。

科目名	倫理学		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1 科目の性格

本科目は、教員免許法施行規則に定める、中学1種「社会」・高校1種「公民」の「教科に関する科目」中の2単位分（選択科目）に対応する。教職課程のみの特設科目である。

2 科目の概要

本科目では、高等学校公民科「倫理」・「現代社会」の指導に必要な、思想史の通史を学ぶとともに、高等学校公民科「倫理」の目標・内容と指導法の基礎を学ぶ。

3 学修目標

本科目の学修目標は以下の3点である。 高等学校公民科「倫理」の構成内容を理解する。 「倫理」の授業展開のための指導案を作成できるようになる。 「倫理」の実際の授業を行う技能を身につけることができる。

内容

- 1 高等学校公民科「倫理」における「先哲学習」の位置づけについて
- 2 古代ギリシアの思想 初期キリスト教の成立と展開
- 3 初期イスラム教の成立と展開
- 4 初期仏教の成立と展開
- 5 奈良時代における仏教受容 平安仏教と鎌倉仏教
- 6 諸子百家の思想 朱子学と陽明学
- 7 日本における朱子学の受容と封建教学の形成
- 8 イギリス経験論と大陸合理論
- 9 ドイツ観念論哲学
- 10 功利主義と実存主義
- 11 近代日本における西洋思想の受容
- 12 「倫理」指導案の作成
- 13 先哲学習における資料活用の方法
- 14 模擬授業の実施 授業分析
- 15 まとめ

評価

指導案作成課題50：筆記試験50の比率で評価（100点満点）し、合計60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】 文部科学省『高等学校学習指導要領』および『公民科解説書』、「倫理」・「現代社会」の検定済み教科書をテキストとして使用する。

【参考図書】 その他参考図書については、授業中に適宜指示する。